



TITLE:

ウスバキトンボの京都大学瀬戸臨
海実験所構内(和歌山県白浜町)への
2017年の初見日

AUTHOR(S):

久保田, 信

CITATION:

久保田, 信. ウスバキトンボの京都大学瀬戸臨海実験所構内(和歌山県白
浜町)への2017年の初見日. くろしお 2017, 36: 1-2

ISSUE DATE:

2017-10

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/227766>

RIGHT:

© 南紀生物同好会

ウスバキトンボの京都大学瀬戸臨海実験所構内（和歌山県白浜町） への 2017 年の初見日

Shin KUBOTA : First appearance date of wandering glider *Pantala flavescens* at the campus of the
Seto Marine Biological Laboratory, Kyoto University in Shirahama Town,
Wakayama Prefecture, Japan in 2017

久保田 信

筆者（久保田, 2017）は、ウスバキトンボ
Pantala flavescens（トンボ科、ウスバキトンボ属）
が和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海
実験所“北浜”において 2016 年 6 月中旬に約
50 個体ほどが群飛しはじめてから不在になる 10

月中旬までの記録をした。翌年の 2017 年 4 月下
旬に、ほぼ同じ場所で本種の 1 個体が飛翔して
いたので、和歌山県で最も早い本種の初見日と
して記録する。



図 1



図 2

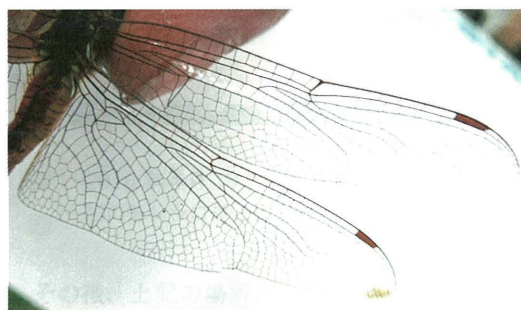


図 3



図 4

図 1 - 4 2017 年 4 月 25 日に京都大学白浜水族館前の植栽にとまったのを捕えたウスバキトンボ
(1 : 背面図 ; 2 : 側面図 ; 3 : 翅の拡大図) とその糞 (4)

2017年4月25日、瀬戸臨海実験所白浜水族館東側の植栽や海岸道路（白浜町のシンボルアイランド円月島側）を飛ぶ1個体の本種の成熟雄（新井 裕氏の査定による）を網で捕えた（図1, 2, 3）。この個体は頭部幅0.5cm、胸部長1cm、腹部長3cm、前翅長5cm、後翅長3.9cmであった。捕獲後に翅をたたんだ状態で1個の木製の洗濯バサミで挟み、体を横向きにして飛翔できないようにし、チリ紙に肢をつかまえさせたところ、4時間（7:55 – 11:50）で7個の脱糞をした。糞は円筒形（図4）で長さは1.5 – 2mmであった。2個目の糞からは20 – 43分おき（平均27.5分、n=6）に排出した。その日の16時半頃、本個体をエタノール固定して保存した。

全国一斉ウスバキトンボ調査報告書（むさしの里山研究会, 2016a, b）によると、各県別の本種の初見日は和歌山県の例が報告されていないが、兵庫県や愛知県などでは4月下旬頃の記録がなされている。2015年は台風の影響で初見日が早まった可能性があるものの、兵庫県・大阪府・京都府で4月中旬から5月上旬に初見されている（むさしの里山研究会, 2016a）。従って、本例も、台風こそ来襲してはいないが、近畿地方とその周辺区域での初見日の時期と一致した。因みに、気象庁（http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/view/mb5daily_al.php?prec_no=65&block_no=1589

[year=2017&month=&day=&view=pl](#)）によると、2017年4月中旬の最大風速及び最大瞬間風速がそれぞれ14.1m/s、20.1m/sの南東の風であった。この様な強風に乗って、本個体が南方から飛来しやすくなったのかもしれない。また、2017年4月には白浜町の瀬戸漁港などの2ヶ所で、今回の遭遇以前にウスバキトンボが1個体ずつ飛翔していたが、網を持参しておらず捕獲できなかった。

謝辞

原稿に目を通し、貴重な情報などを下さった新井 裕氏に深謝致します。

引用文献

- 久保田 信. 2017: ウスバキトンボの京都大学瀬戸臨海実験所構内(和歌山県白浜町所在)への出現. KINOKUNI, (91), 12-14.
- むさしの里山研究会. 2016a: 全国一斉ウスバキトンボ調査報告書.
- . 2016b: 全国一斉ウスバキトンボ調査報告書.

(〒649-2211 西牟婁郡白浜町 459)
京都大学フィールド科学教育研究センター
瀬戸臨海実験所